

寅さん歩 その22

東京2020 聖火リレー-2

～長野県-1～



写真右上は東京2020オリンピックの聖火リレーのトーチを掲げる平野寅次郎こと平野武宏です。全国のウォーキング大会を映画「男はつらいよ」の寅さんのように歩き回ったので妻の友人から「平野寅次郎」と命名され、ペンネームとしています。写真は都庁でのトーチ公開時に撮影しました。パラリンピックのトーチも色違いであります。

東京2020大会の聖火は2020年3月26日に福島県をスタートし、移動日を含む121日をかけて47都道府県を回り、7月24日の開会式会場に到着します。

寅次郎、八柳修之さん作成の「バーチャルウォークで沖縄から新国立競技場へ聖火を運ぶ（仮想コース）」を行い、通過した都道府県での寅次郎のウォークの思い出と映画「男はつらいよ」で寅さんの恋の記録をお話ししました。

映画「男はつらいよ」は第1作の公開[1969年(昭和44年)8月27日]から50周年となり、記念して2019年(令和元年)12月27日に第50作「男はつらいよ お帰り寅さん」が公開されます。寅さん役の渥美清さんは1996年(平成8年)に亡くなっていますが、今までの作品の寅さんが技術を駆使して登場とのこと。

「寅さん歩」も映画の50周年を祝って一足早く全国の聖火リレーのコースを紹介しながら、前回のバーチャルウォークで通過しなかった道県での寅次郎のウォークの思い出と寅さんの恋をお話したいと思います。各県名の脇の月日は実際に聖火リレーが行われる月日で、コースはスタートとゴールの予定地です。映画の寅さん、風光明媚の自然と人情味豊かな信州がお気に入りのようで、長野県は6作品に登場していますので2回に分けて紹介します。

〔長野県-1〕 2020年4月2日

聖火リレーコースは軽井沢町～長野市で上田市も通過します。

寅次郎、長野県のウォーキング大会参加は飯田市と木曽路なので寅さん歩「聖火リレー-3 長野県-2」でお話しします。

映画の寅さん、1976年（昭和51年）12月公開の第18作「男はつらいよ 寅次郎純情詩集」で上田市の別所温泉を訪れています。柴又で甥の満男の担任の美人先生 柳生雅子（壇ふみ）にのぼせ、家庭訪問をめちゃくちゃにして旅に出ます。旅先の信州の別所温泉で旅一座と再会。大盤振る舞いでお金が支払えず警察へ突き出されます。妹さくらが柴又から身元引き取りに来ます。反省した寅さんに妹さくらは「先生は諦めてせめて先生のお母さんくらいの人ならば」と言ったところに、先生の美人のお母さん柳生綾（京マチ子）が登場。



柴又のお宅へ通いつめ献身の寅さんですが、お母さんは重い病に冒され天に召され、教会の葬儀で神妙な寅さんです。年末の商売に旅立つ寅さん、妹さくらに「お母さんに花屋をやらせ、自分は渡世人をやめて手伝うつもりだった」と夢を語ります。さくら、「お母さんに聞かせたかった」と呟きます。六日町の小学校に転任した雅子を寅さんがいつもの格好で訪ね幕。寅さんの格好は冬でも寒さを感じさせないのは何故でしょうか？

1988年（昭和63年）12月公開の第40作「男はつらいよ 寅次郎サラダ記念日」の主舞台は小諸です。小諸駅で出会った老女の家で一晩世話になった寅さん、体調の悪い老女を入院させるために行った病院の女医の真知子（三田佳子）が夫と死別したと聞き、惚れる寅さんです。柴又に帰り、甥の満男の進学の下見だと女医の姪が通う早稲田大学を訪問、教室で人気者になります。真知子も東京に来て楽しく過ごします。しばらくして老女が危篤で「寅さんに会いたい」との真知子の電話で寅さん小諸に駆けつけます。



老女の死で寅さんの胸で泣く真知子です。「寅さんはひとりの女を思い出させてくれる人」と真知子が呟きます。俵万智の「サラダ記念日」がモチーフになった作品で出演者の心象風景が短歌として詠まれ全編にちりばめられています。一人暮らしの老人問題、介護問題も織り込まれた作品です。満男の「なぜ大学に行くのか？」の悩みに寅さん、「俺みたいに勉強してない奴は振ったサイコロの出た目や気分を決めるよりしょうがないが、勉強した奴は自分の頭できちんと筋道を立て、どうしたらよいか考えることが出来る。その為に大学で勉強するんだ」と明快な答えを話します。

1980年（昭和55年）8月公開の第25作「男はつらいよ 寅次郎ハイビスカスの花」の最初のシーンは信州の田舎道を歩く寅さんで始まります。

この作品の詳細は寅さん歩「聖火リレー1 群馬県」および寅さん歩「バーチャルウォークで聖火を新国立競技場へー1」を参照ください。

聖火は長野県ー2へ引き継がれます。

平野 寅次郎 拝